OPINION SLICE
オピニオン・スライス

千房株式会社 社長
中井政嗣氏

――仮釈放された受刑者の雇用をされているとのことですが、どのような経緯からですか?

創業当時、従業員の採用は苦労しました。お好み焼き屋で、まだ、名前も売れておらず、学歴・成績・身元保証人一切問わずで採用していました。すると採用した中に過去に暴走族に入って暴れていたという人がいたんですね。そんな人も採用していたという話をしていると、今度はある中学の先生から、鑑別所に送られそうな生徒さんがいる。就職をすれば鑑別所（少年院）送りが免れるというのですね。そこで、千房で採用してくれないかという話でした。

その時は、うちは更生施設ではないと断ったのですが、先生が熱心なんですね。夜中でも何時でもいいから会って欲しいと。熱意に負けて、生徒さんと会ってみました。会ってみると家庭環境や身の上話を聞いて、情が移ったのでしょうかね。採用を決めました。私は7人兄弟の5番目で、上の兄達は学業成績優秀なんですね。出来の悪い子供がかわいいといいますが、そんなの嘘です。やっぱり親は出来のいい子がかわいい。出来の悪い私のことを親がどう思っていたのか。私

の親に私の今日を想像できたかと聞いてみると、想像できなかった。親ですら子供の成長が分からない。人の成長が分からない。人は出会う人で変わるのだと。だったらチャンスを与えるべきかと思ったんですね。

こんなことをしていると、日本初の官民協同 PFI による刑務所、美弥社会復帰促進センター（山口県）が進めている就労支援事業の一環として、出所者の雇用をしてくれないかという要請が来たのです。

これまで知らないで採用したことはありましたよ、でも刑務所からの直接の採用は不安がありました。社内でも賛否両論がありました。

でも、まあ会うだけあってみようと。採用候補に上がる方に会ってみると泣かされました。すべて家庭崩壊。「こんな女に誰がした」という歌がありましたが、同じように、「こんな人に誰がしたのか」。100%罪を咎めることが出来ませんでした。

うちはあくまで企業で更生施設ではないです。しかし、経済というのは「経世済民」、世を経（おさ）め、民を救う、これが経済だと。このことは善か悪かといったら、善に決まっている。もし仮にこれで会社が潰れるようなことがあったら、こんな日本はもうええと思いました。大げさな話ですけど。

――就労支援情報をオープンにされていますが

協力雇用主制度があるじゃないですか。確かに制度はあるんですけれども、実際に活動はどうなのかといった場合に、正直広がってないんですね。良いことをしているのになんで広がっていないか。こっそりやってるからです。我々の大きな特徴というのは、このことをオープンにしているということです。オープンにするところに意味がある。

大変おこがましいですけど、千房は関西で名前だけは大変有名になりました。千房がこの就労支援に取り組んだということのインパクトが大変強い。それだけ私どももリスクはありますが。

初めての雇用の際、採用面接も含めて関西テレビの取材を受けました。放送間近になっていくんですけれども、やっぱり怖かったんです。

ところが、捨てたものじゃないです。犯罪者を集めてというような批判的なものが 1 通だけありましたけれども、あとは全部、よくやったという励ましのメールがじゃんじゃん入りました。

千房がオープンにしたことによって、もちろん受刑者、元受刑者もそうですが、それ以上にすごくよかったなと思う 1 つに、社会の偏見が緩和されてきた、これがすごく大事なんですね。千房さんでも受けいれてるんやんか、大丈夫と。色々とリスクはありますけれども、立派に立ち直っていってる者もいるんです。

千房のこの取り組みで成功事例を 1 つでも多く積み上げていくようになれば、間違いなく世の中は変わります。経営とか教育とかは間違いなくマラソンではなくて駅伝なんです。繋いでいくんです。

――今後の活動については

日本財団の支援によって大阪から始まった出所者の就労支援（職親）プロジェクトが東京にも立ち上がりまして、北海道、福岡、名古屋も入ってきました。法務省の全国 8 つの管区に職親プロジェクトをつくろうと。この推進を日本財団と共に、全国に広げよう、支部をつくろうということをやっています。10 年たったら社会の環境は変わります。

職親プロジェクトでは、問題情報も全部オープンにしているんです。

プロジェクト内では失敗例も共有します。勤務後、すぐに飛び出す子もいます。その辺は想定内にしておいてくださいと。それによって、あなたの会社はどうですか？　というふうな話をすることによって、皆安心しはるんですね。

受刑者に年間かかる経費は 1 人 250 万位です。でも、半分ぐらいが再犯で戻って来るんでしょう。これを減らすことでどれだけ国費が助かるか。再犯を減らすには、ともかく職場だと。私もこのプロジェクトに関わってからつくづく思いました。だから、職場を提供するということがいかに大事か。

数字は後からついてきます。5 年、10 年、100 年続いていくような企業を目指したいものです。うちの会社は決してもうかってないんです。もうかってないけれども、何かしらんけどうまいこといってる。何でうまいこといってるか。会社がまっすぐ生きているからです。反省は 1 人でできますが、更生は 1 人ではできません。企業の社会貢献も大事な要素の 1 つです。

（Interviewer：桂　充弘／ Photo：武田）